

六月二日

午前中世田谷村で諸々の作業。十二時過研究室。十三時教室会議。会議時間が長過ぎるなあ。何と十六時迄。その後北京計画のチエックするも仲々うまくいかない。以心伝心とは程遠い状態である。十七時過研究室発。十八時過ぎ道に迷いながら赤坂、石井和紘邸拾庵へ。石井和紘氏から拾庵茶席に招かれて出向いた。石井氏からは最近異常な程に多数のメッセージ葉書が送られてきて、いささか不気味な感があったので、その無気味さの素に直接出向いた趣がある。鍋を二人でつつきながら四方山話し等。石井氏とはそれこそ悪縁で、建築の世界でこんな悪縁があるのかと思う位の仲で、六角鬼丈、故毛綱等との婆娑羅の会も、石井と私の個人的な確執があつて壊滅した歴史がある。今はもう取り返しがつかぬが、婆娑羅の会は、上手に育てれば近代建築批判としては大きな破壊力を持ち得た可能性があつた。残念ながら皆が運動と言える迄の事を成す器を持っていなかった。今になって想えばである。そんな事を思い出しながら過ごした。悪縁ではあるが、お互いに年の功である。それ等の事はおくびにも出さず、二十一時過迄の時を過ごす。二十一時に予定していた北京計画の打ち合わせはキャンセル。明日に繰り越した。二十二時半世田谷村に戻る。もらってきたアバウト・ウッドKANZHUIRO ISHIIのペー지를ゆっくりたどりながら読む。彼は今、何を本当に考えようとしているのだろうか。地球学と丸太建築はCO2の論理だけで結びついているのだろうか。

六月三日

一時、眠れぬままに起き出して懨然としている。こんな時に銅版画に取り組めば良いのと思いはするが、体が言う事をきかない。八時起床。眠い眼をこすりながら、朝食。いなり寿司、豆腐キツネだな。九時四十五分研究室。北京Pのチエック。大学院レクチャー準備。今日はアルヴァ・アルトについて講じる予定だったが気が乗らない。

十時四〇分院講義。気を取り直して力を入れる。アルヴァ・アルトの建築。フィンランドの国策としてのデザイン・ビジネス。ナショナル・ロマンティズム。補足、ステイブン・ホルのヘルシンキ現代美術館。十二時一〇分迄。北京M社にかなりの量のメールを送る最終準備。十三時半過設計製図採点。十五時過研究室に戻り。北京にブランドローイングその他五〇点程メールで送り始める。送り終わるのに一時間程を要するらしい。ヘルベルト、大沢温泉モデルチエック。

北京Pプレゼンテーション資料<sup>38</sup>シートメールで送信後、香港のMKにTEL。全ての資料を北京に送った旨、及びワシントンでの成功を待っている旨伝える。アメリカの帰りにTOKYOで会う事を約す。大きい仕事は自由で面白いという原理が在るな。超上空を飛んでいるコンドルの数は少ないという現実があるからだ。十八時過新宿で会食。二十一時四〇分迄。李祖原より連絡入り、来週月曜日に来日との事。来週は彼と一日、ゆっくり日本の禅寺で過ごしてみるつもり。日本の仏教界とCY・LEEを会わせたら、という考えが浮かぶ。面白いかも知れない。明日はS邸O邸の打合わせ。軽井沢O邸は超ローコストの仕事になるが、クライアントの理解もあり、何とかやれるかも知れぬ。